

活用事例	1 授業中に地震が発生した場合の避難訓練 【特色】緊急地震速報の活用と消防署との連携		
学校名	山口市立阿東中学校		
日時	平成25年11月26日(火) 6時間目		
場所	運動場	参加者	生徒・教職員及び消防署職員

## 1 訓練のねらい

- (1) 生徒一人ひとりの防災意識の高揚を図るとともに、地震・火災の発生時に自らの安全を確保する能力を身に付けさせる。【生徒】
- (2) 地震・火災の発生という緊急事態が発生したときに、適切な対応ができるようにする。【教職員】

## 2 訓練の概要

<想定> 授業中に緊急地震速報が入る。その後、強い地震が発生し、火災が起こる。

- (1) 学級担任が、目的・想定・避難行動の仕方の説明を行う。
- (2) 気象庁の緊急地震速報受信時対応行動訓練用キットを用いて、地震発生のアナウンス・効果音を放送する。
- (3) 生徒は、放送と教職員の指示に従い避難行動を取る。



頭を押さえ机の下に潜る

- (4) 火災報知機のベルが鳴る。

- (5) 職員室の防災監視板によりエリアを確認し、教職員が火災現場・火災状況の確認と初期消火を実施するとともに、状況を職員室へ報告する。また、火災現場に近い教職員も可能であれば、近くの消火器を使用し初期消火を行う。



初期消火携帯物品

- (6) 報告を受け、119番通報を行う。同時に、地震による火災の発生と避難開始の指示を放送により行う。
- (7) 生徒は、放送と教職員の指示に従い避難行動を開始する。
- (8) 指定された避難場所に集合し、人員点呼を行い生徒の安全を確認する。



校舎内 → 落ち着いて行動  
校舎外 → かけ足で避難

(9) 消防署職員の指導による消火訓練を行う。



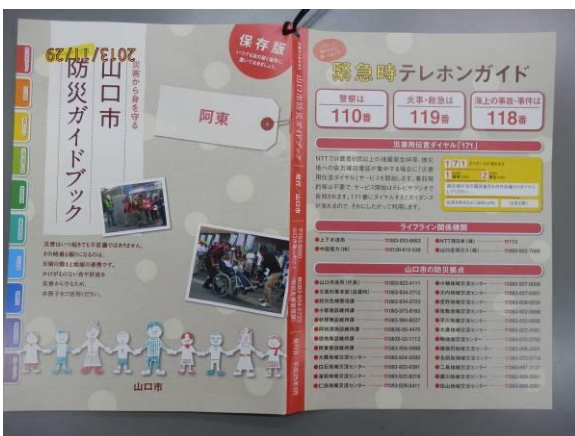
「火事だー」と大声で叫んで消火

(10) 消防署職員から、本日の避難訓練の講評と災害時の対応について講義を受けた。改めて、避難の際の落ち着いた行動と人員の確認の重要性を再確認した。

また、講義では、山口市の防災ガイドブックの阿東版を紹介され、自分たちの住む地域の防災情報や防災時の対応策を確認しておくことの重要性を強調された。



消防署職員からの講評と講義



山口市防災ガイドブック《阿東版》

### 3 訓練の成果と課題

#### 【成果】

◇ 緊急地震速報を活用した避難訓練は、今年度2回目ということで、教職員・生徒とも的確な指示と行動ができた。また、避難場所への避難も「無言・迅速・安全・真剣」を意識した行動ができた。

このことにより、万が一の災害発生時に訓練の成果を生かすためには、訓練を繰り返し実施することが大切であることを再確認した。

◇ 現在、2年生の家庭科の授業では「安全な住まい」と「地震対策」について学習しており、訓練が教科での学習に活かされた。

◇ 消防署の協力で、地震発生後に火災が発生する想定で実施したが、火災場所を教職員には知らせないことで、初期消火への対応や生徒の安全な避難経路の確認が各教職員の判断に委ねられ、教職員にとっても緊張感のある訓練となった。

また、訓練後に校内の消火器の設置場所を再確認する姿が見られ、教職員の緊急対応への意識強化へとつながった。

#### 【課題】

◆ 今回は地震・火災時の避難訓練であったが、同じ想定でも、発生時間を変えたり教職員の数を少なくしたりすることだけで、一人ひとりに要求される行動や判断が変わることがわかった。今後も想定される様々なケースで訓練を実施し、防災意識の高揚につなげる必要がある。

◆ 阿東地区は、今年7月に豪雨災害により甚大な被害を受けた。生徒の中にも被害を受けた家庭がある。そうした中で、安心・安全な学校づくりは、本校の重要な課題の一つである。

しかし、災害は時と場所を選ばず、かつ、その種類も様々である。現実には、今年だけでも、国内で様々な災害が発生している。これらの災害のすべてに対応した対策や訓練を学校だけで実施することは不可能である。

そこで、重要になるのは、まず、教職員一人ひとりが、日頃から様々な災害のケースを想定し、自分で判断し行動できるように心がけることである。また、保護者・地域・関係機関との連携を図り、想定される災害への防災訓練を実施していくことが大切である。